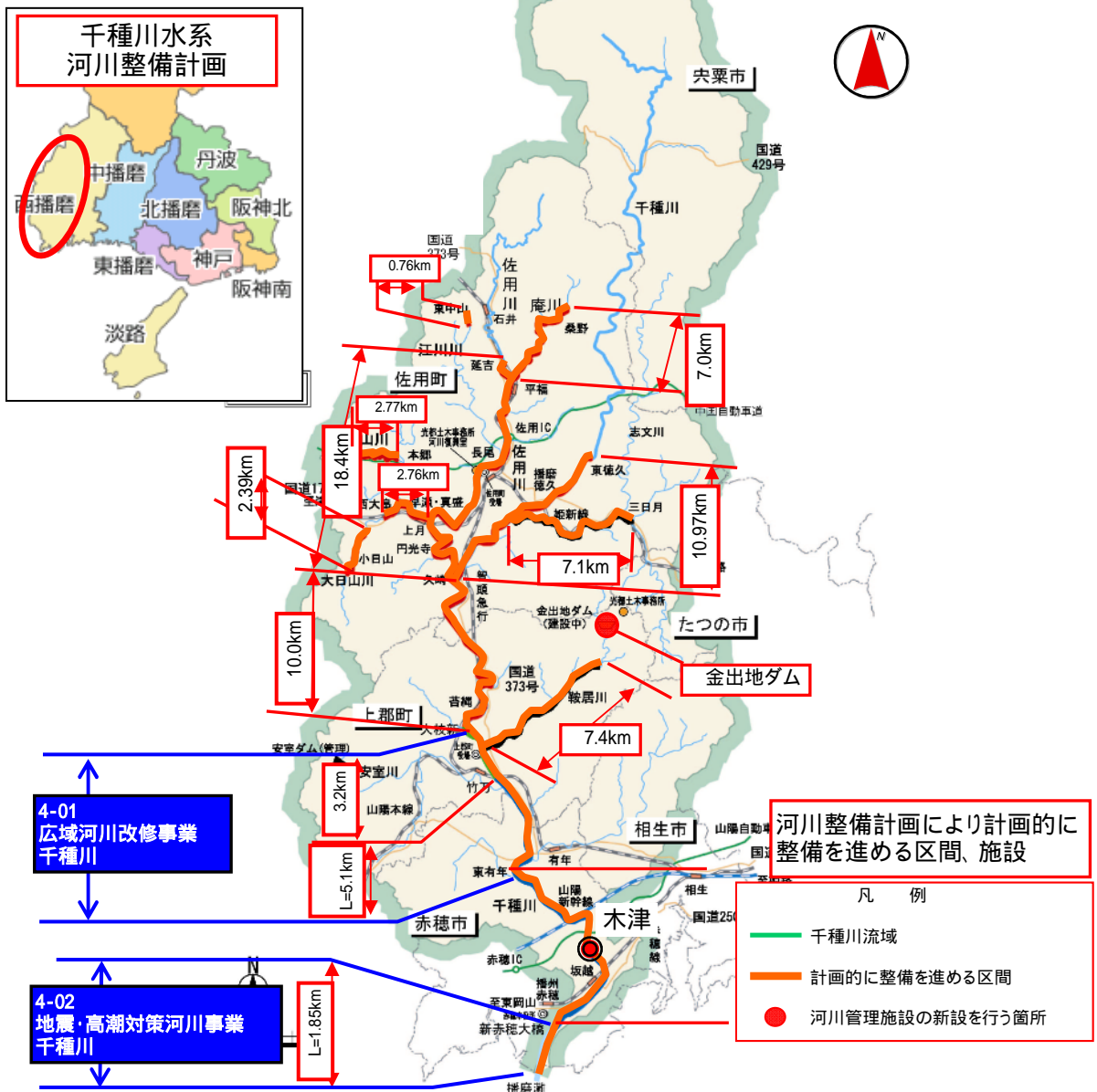


4 . 千 種 川 水 系

河川整備計画

4. 千種川水系 河川整備計画 全体位置図



4-01
広域河川改修事業
千種川

4-02
地震・高潮対策河川事業
千種川

河川整備計画により計画的に
整備を進める区間、施設

- 凡 例
- 千種川流域
 - 計画的に整備を進める区間
 - 河川管理施設の新設を行う箇所

河川整備計画の概要

策定年度	平成24年度					
対象河川	加里屋川を除く千種川水系流域内の全ての法河川(流域面積:754km ²)					
整備目標流量	現行改修計画相当流量 木津地点 2,800m ³ /s(概ね17年に1回程度の規模で発生する洪水)					
整備区間	千種川	河川名	No	整備区間	延長	備考
				河口～新赤穂大橋	1.85km	事業中
				長谷川合流点～JR山陽線鉄橋の区間	5.07km	事業中
				JR山陽線鉄橋～岩木橋合流点の区間	3.20km	事業中
			岩木橋合流点～町道外川原線内橋の区間	10.00km	事業中(災害)	
			町道外川原線内橋～町道東徳久殿崎線天一神橋より0.6km上流の区間	10.97km	事業中(災害)	
		鞍井川		千種川合流点より約0.3km上流～県道上都末広線西の谷橋より約0.1km上流	7.40km	未着手
				金出地ダム建設	-	事業中(ダム)
		佐用川		千種川合流点～庵川合流点約1.5km上流	18.40km	事業中(災害)
		庵川		佐用川合流点～県道上三河平福線小成橋	7.00km	事業中(災害)
		志文川		千種川合流点～角亀川合流点	7.10km	未着手
大日山川			佐用川合流点～国道179号須安橋より約0.6km上流	2.76km	事業中(災害)	
			国道179号判宮橋より約0.1km上流～町道小日山東谷線東谷橋より約0.5km上流	2.39km	事業中(災害)	
幕山川			町道梶屋ノ奥線梶屋橋～県道上福原佐用線大垣内橋	2.77km	事業中(災害)	
江川川			町道中山門出橋より約0.3km下流～町道吉永土居線吉永上橋より約0.2km上流	0.79km	事業中(災害)	
対象期間	平成24年から概ね30年					

事業評価対象区間

【4 - 0 1 二級河川 千種川 広域河川改修事業】

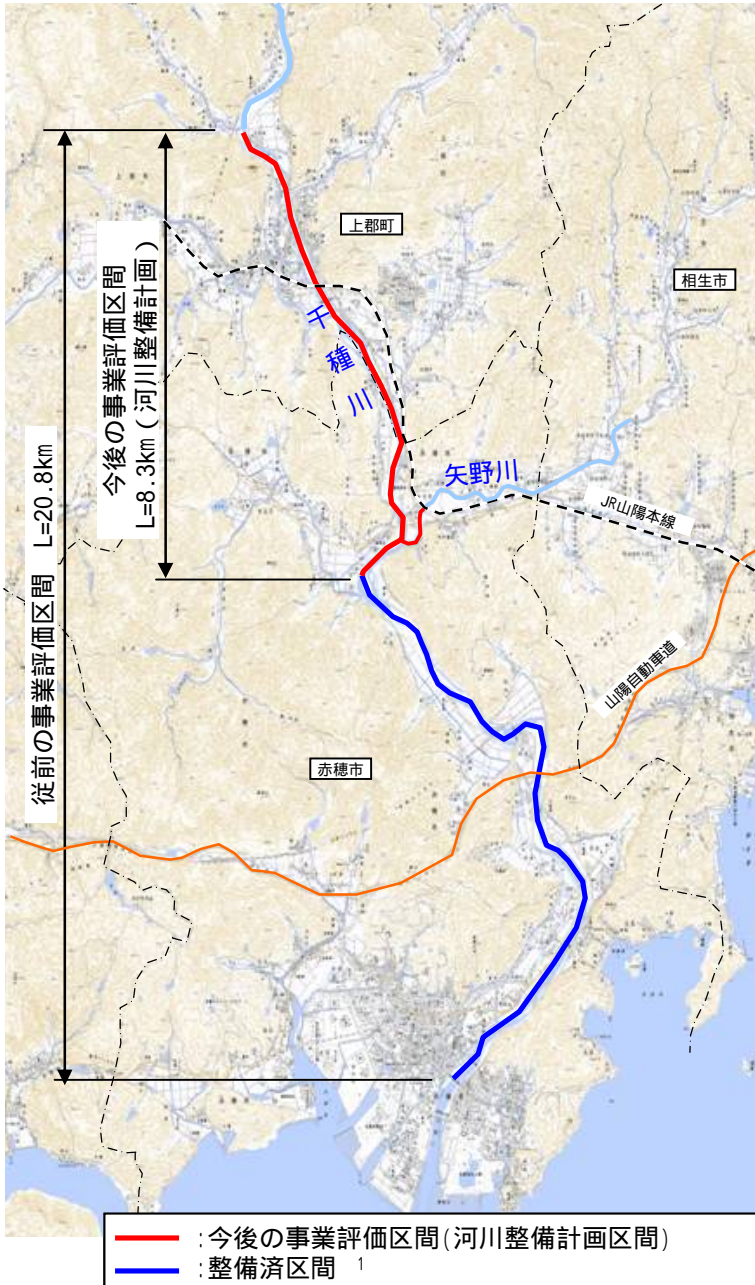
[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
事業採択年度	昭和 54 年度	昭和 54 年度
完成予定年度	平成 35 年度	平成 35 年度
総事業費	372 億円	372 億円
整備延長	20.8km	20.8km
整備区間	赤穂市中広～赤穂郡上郡町井上	

[今後] 河川整備計画に位置づけられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 24 年度	平成 24 年度
完成予定年度	平成 35 年度	平成 35 年度
総事業費	182 億円	182 億円
整備延長	8.3km	8.3km
整備区間	赤穂市東有年～赤穂郡上郡町井上	

事業概要図



1 今回の河川整備計画の整備目標流量に対して流下できる断面が確保されている区間

事業変遷

- 昭和 49 年：台風 8 号洪水
(浸水家屋 26,362 戸)
- 昭和 51 年：台風 17 号洪水
(浸水家屋 14,339 戸)
- 昭和 54 年：中小河川改修事業着手
- 平成 10 年：事業評価(再評価)
- 平成 15 年：事業評価(再評価)
- 平成 16 年：台風 21 号洪水
(浸水家屋 1,861 戸)
- 平成 18 年：床上浸水対策特別緊急事業着手
(上郡地区)
- 平成 21 年：千種川水系河川整備基本方針策定
- 平成 21 年：河川整備計画策定中間報告
- 平成 21 年：台風 9 号洪水
(浸水家屋 1,924 戸)
- 平成 24 年：千種川水系河川整備計画策定
千種川水系河川整備計画 策定
完了報告(再評価)

浸水家屋数は千種川水系河川整備計画による

河川整備計画策定報告【4-01】

部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (課長補佐兼治水係長 木村 浩之)	内線	4426 4408 (4431) (4437)
------	----------------------------	---------------------	--	----	----------------------------------

河川整備計画名	千種川水系河川整備計画
---------	-------------

河川整備計画の策定経緯	平成 21 年 3 月 30 日 河川整備基本方針策定 千種川委員会(第1回~第22回、(再)第1回~第5回) 平成 14 年 9 月 13 日~平成 23 年 9 月 2 日 河川整備計画策定 平成 24 年 6 月 6 日
-------------	---

河川整備計画と事業評価の関係	採択	~H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	S54	H10 再評価	委員会立ち上げ										河川整備計画策定	
					再評価						中間報告			報告

千種川委員会の主な意見	対応等
・ 溢れた場合でも避難行動が可能な堤内地側の対策を検討して欲しい。	・ 浸水被害軽減対策検討会を立ち上げ、地元の意見を反映させた二線堤、輪中堤の計画を策定した。
・ 河川改修とあわせて土砂の流出を防ぐ計画を検討して欲しい。	・ 土砂災害を防止するため被害の著しい箇所では、砂防堰堤や治山堰堤を計画し、河川改修と同時に進めている。

事業種目	河川事業	新規評価年度	-		現 計 画 ¹	前 回(H21) ²
事業名	二級河川千種川水系千種川 広域河川改修事業	河川整備計画策定年度	H24	総事業費	182億円	182億円
		〔事業採択年度 着工年度〕		内用地補償費	65億円	65億円
		再評価年度		-		
事業区間	赤穂市中広 ~ 赤穂郡上郡町井上	完成予定年度		H35	H35	
所在地	赤穂市中広 ~ 赤穂郡上郡町井上	進捗率 (内用補進捗率)		93%(99%)	64%(93%)	
		残事業費		13億円	66億円	

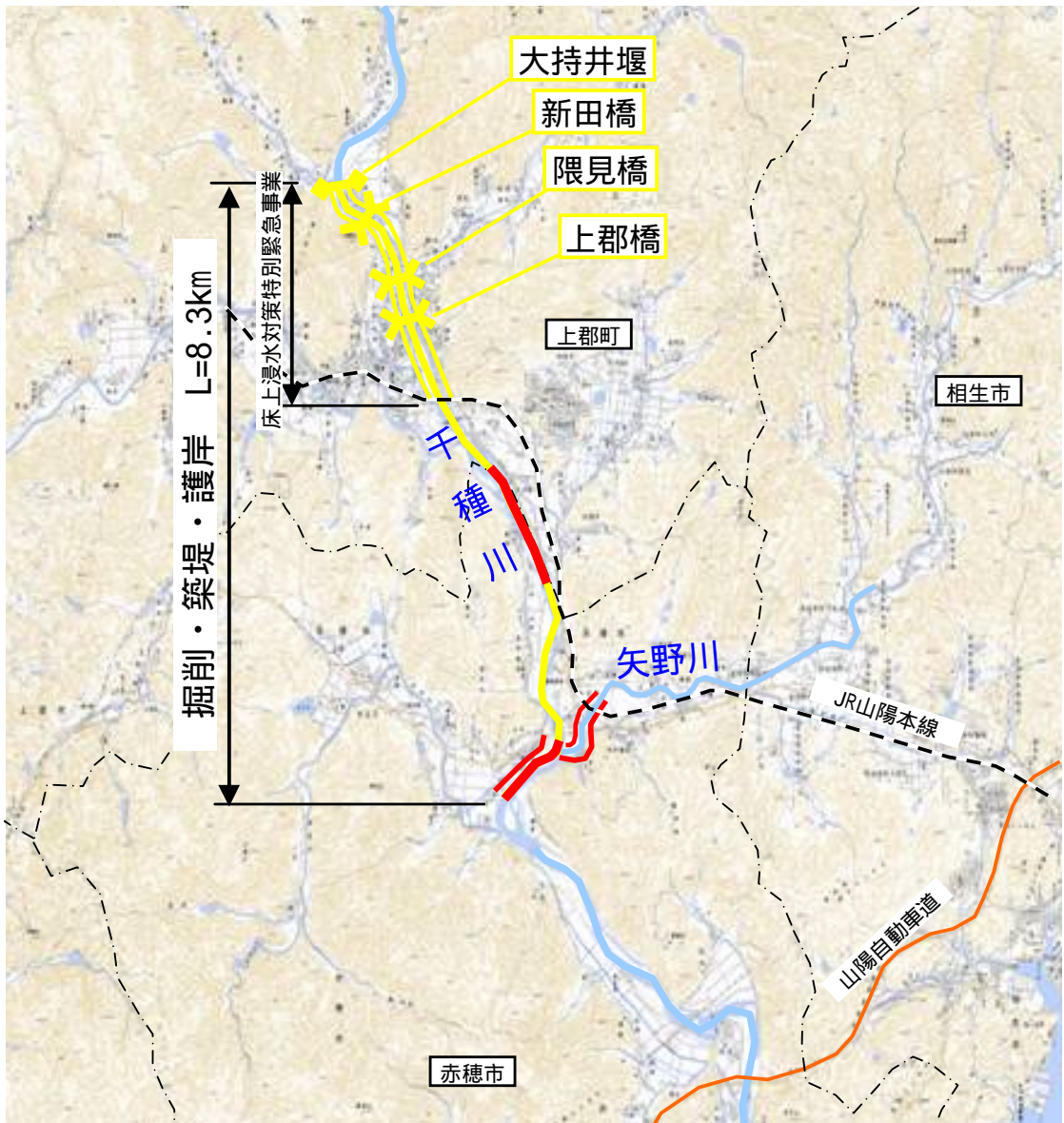
事業の目的	事業内容	
当該河川では、昭和51年9月台風17号のほか、平成16年9月台風21号、平成21年8月台風9号による洪水等、近年多くの洪水被害を受けている。 そのため、上下流バランスを考慮し、下流部改修済み区間と同規模の河川改修(概ね17年に1回の降雨で発生する規模の洪水を安全に流下させる)を進め、流域住民の安全で安心して生活できる環境を確保する。	計画流量	現 計 画 2,800m ³ /s (基準点：木津) L=8.3km
	整備延長	前 回 (H21) 2,800m ³ /s (基準点：木津) L=8.3km
	主要工種	築堤、河床掘削、 橋梁3橋、井堰1基、 背水区間整備
〔負担割合 国 1/2、県 1/2〕		

【前回評価時点からの事業計画の変更概要】	
河川整備計画の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業区間等を見直した。	
(1)必要性	千種川流域では、昭和51年9月台風17号をはじめ平成16年9月台風21号、平成21年8月台風9号洪水等で多くの浸水被害が発生した。 本川の築堤、河床掘削に加えて本川背水の影響で度々浸水被害が発生する、支川矢野川の背水対策を進める必要がある。
(2)有効性・効率性	費用便益比：B/C=7.6 平成16年台風21号で甚大な浸水被害を受けた上郡工区において、床上浸水対策特別緊急事業を活用し、重点投資による早期整備を図っている。 支川矢野川の背水対策については、有年土地区画整理事業と一体となって浸水被害の軽減を図る。
(3)環境適合性	河床掘削においては、河畔林や河川植生の保全に努めるとともに、改変する場合は、在来植生が生育していた表土を再利用するなど植生の回復に努める。 瀬や淵を保全するなど、生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。 上郡工区において、巨石積み護岸や河川敷の整備を行うなど、親水空間として配慮した工事を行っている。
(4)優先性	度重なる浸水被害を受けており、早期に事業効果を発揮させるためにも、優先的に改修を進める。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

1：策定までに整備済みとなった部分を含む。

2：前回の中間報告時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図



凡例	
	橋梁
	井堰
	H21～24に完成箇所
	H25以降に実施予定箇所

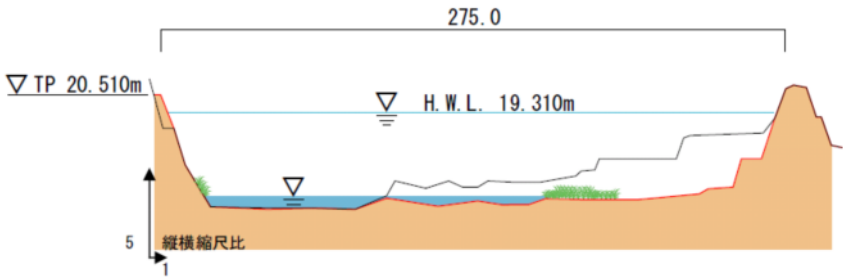
整備済区間(上郡工区)



未整備区間(赤穂市東有年)



標準断面図(赤穂市東有年)



【4 - 0 2 二級河川 千種川 地震・高潮対策河川事業】

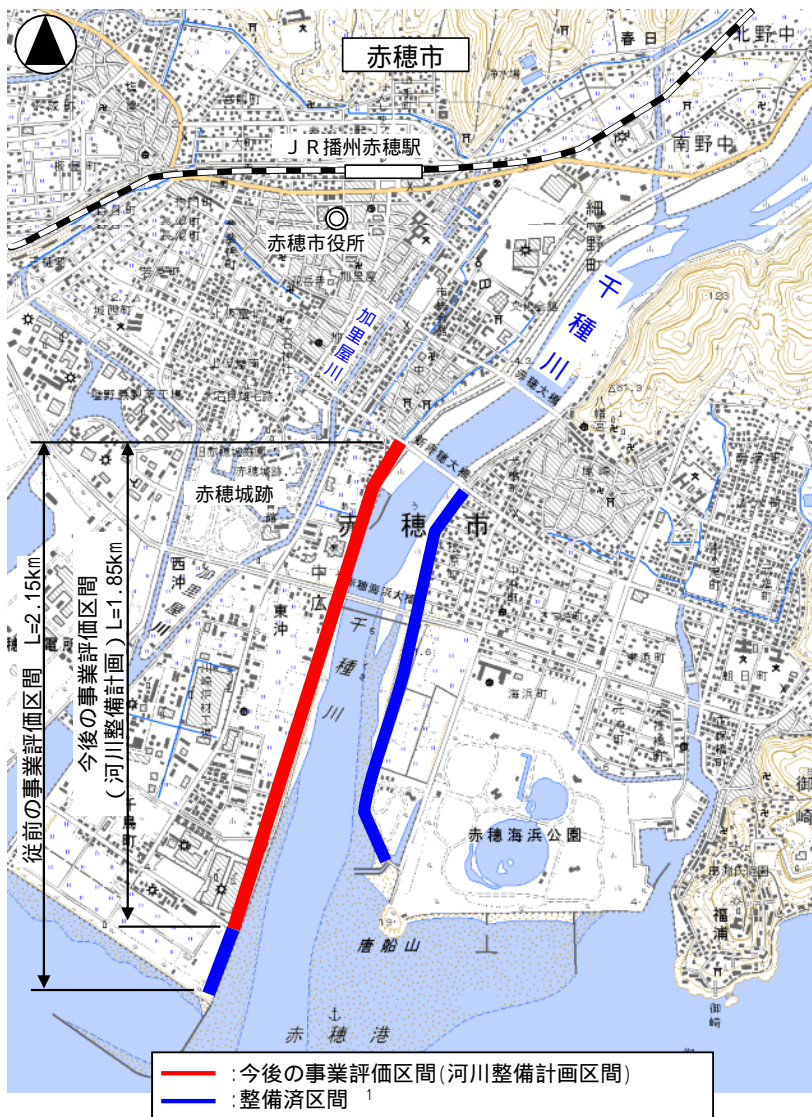
[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
事業採択年度	昭和 52 年度	昭和 52 年度
完成予定年度	平成 40 年度	平成 40 年度
総事業費	38 億円	38 億円
整備延長	2.15km	2.15km
整備区間	赤穂市中広	

[今後] 河川整備計画に位置づけられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 24 年度	平成 24 年度
完成予定年度	平成 40 年度	平成 40 年度
総事業費	10 億円	10 億円
整備延長	1.85km	1.85km
整備区間	赤穂市中広	

事業概要図



1 今回の河川整備計画の整備目標流量に対して流下できる断面が確保されている区間

事業変遷

- 昭和 49 年：台風 8 号洪水
(浸水家屋 26,362 戸)
- 昭和 51 年：台風 17 号洪水
(浸水家屋 14,339 戸)
- 昭和 52 年：播磨高潮対策事業着手
- 平成 10 年：事業評価(再評価)
- 平成 15 年：事業評価(再評価)
- 平成 16 年：河川災害関連事業着手
(河口付近の整備済区間)
- 平成 18 年：河川整備計画原案作成
- 平成 21 年：千種川水系河川整備基本方針策定
- 平成 21 年：河川整備計画策定中間報告
- 平成 24 年：千種川水系河川整備計画策定完了報告(再評価)

浸水家屋数は千種川水系河川整備計画による

河川整備計画策定報告【4-02】

部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (都市河川係長 山本 良太郎)	内線	4426 4408 (4431) (4417)
------	----------------------------	---------------------	--	----	----------------------------------

河川整備計画名	千種川水系河川整備計画													
河川整備計画の策定経緯	平成 21 年 3 月 30 日 河川整備基本方針策定 千種川委員会(第1回~第22回、(再)第1回~第5回) 平成 14 年 9 月 13 日 ~ 平成 23 年 9 月 2 日 河川整備計画策定 平成 24 年 6 月 6 日													
河川整備計画と事業評価の関係	採択	~H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	S52	H10 再評価	委員会立ち上げ ● 再評価								中間報告		河川整備計画策定 報告	
千種川委員会の主な意見	・河口付近は潮の影響があるが、満潮を考慮した河川計画になっているのか。						対応等 ・期望平均満潮位(最高満潮面の平均値)を河口部での水位として、目標とする流量が流せる河川計画としている。							

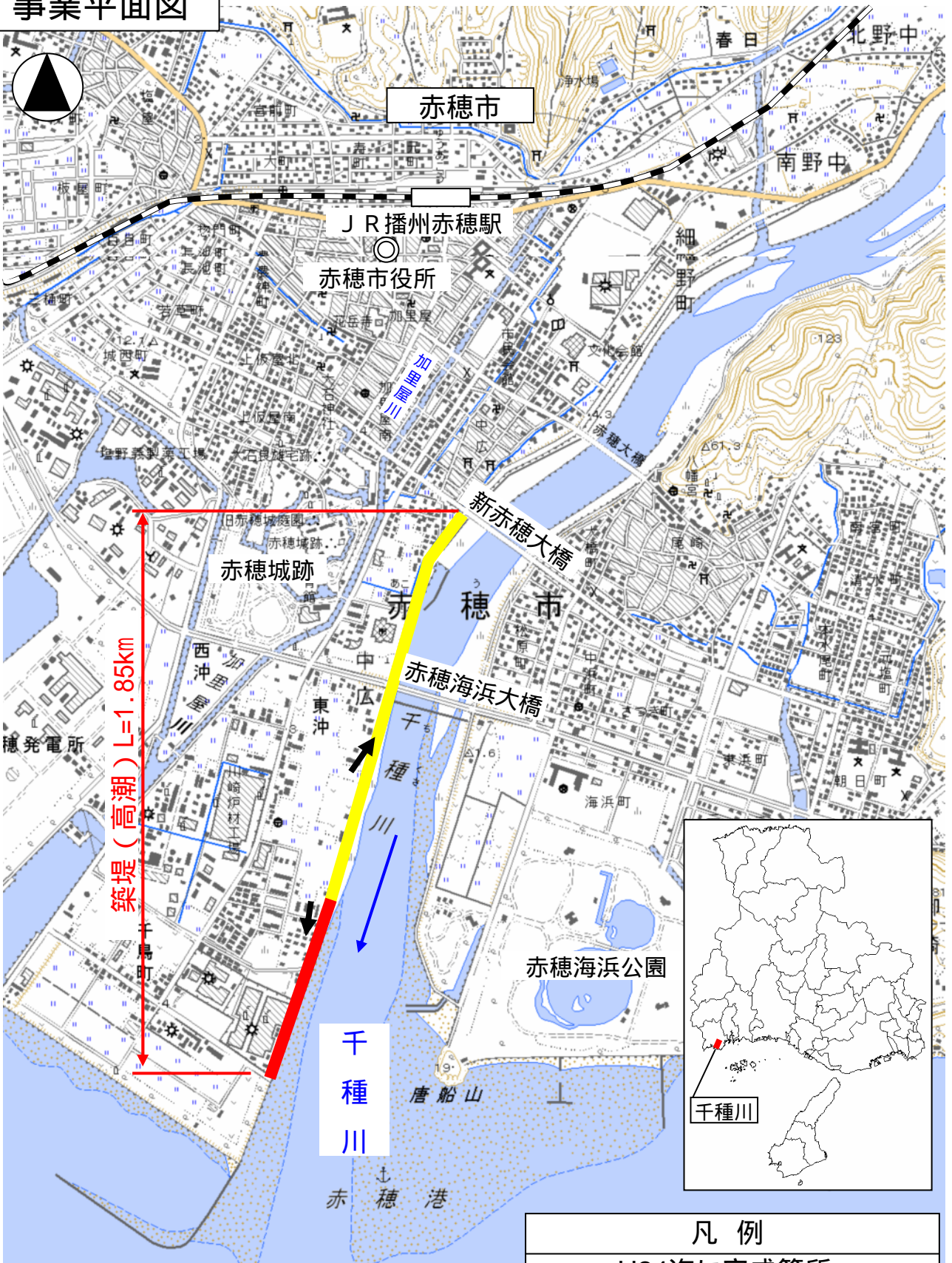
事業種目	河川事業	新規評価年度	-		現計画 ¹	前回(H21) ²
事業名	千種川水系千種川 地震・高潮対策河川事業	河川整備計画策定年度 (事業採択年度 着工年度)	H24	総事業費	10億円	10億円
		再評価年度	-	内用地補償費	2億円	2億円
事業区間	赤穂市中広			完成予定年度	H40	H40
所在地	赤穂市中広			進捗率 (内用補進捗率)	30% (54%)	20% (50%)
				残事業費	7億円	8億円

事業の目的	事業内容		
播磨灘沿岸部では、昭和39年、40年の高潮による浸水被害を契機に播磨高潮対策事業に着手した。 千種川では昭和40年9月台風23号と同等規模の台風が高潮時と重なっても安全に対処できるように高潮堤防を整備することで、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。	計画流量	現計画	前回(H21)
	整備延長 主要工種	2,800m ³ /s (基準点:木津) L=1,850m 築堤(高潮)	2,800m ³ /s (基準点:木津) L=1,850m 築堤(高潮)
〔負担割合 国 1/2、県 1/2〕			

【前回評価時点からの事業計画の変更概要】	
河川整備計画の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業区間等を見直した。	
(1)必要性	播磨灘沿岸部では昭和40年など、これまでに高潮による浸水被害に見舞われている。当該事業においては、防潮堤背面の築堤が必要となっている区間が残っており、引き続き事業を進める必要がある。
(2)有効性・効率性	費用便益比：B/C=12.4 高潮堤防を整備することにより、昭和40年9月台風23号と同規模の台風が高潮時に来襲しても、浸水被害を防止できる。
(3)環境適合性	高潮護岸の前面に捨石を設置し、多孔質空間を確保することで、生物の生活環境に配慮する。
(4)優先性	残事業に河口部付近の工事を残しており、赤穂市街地を高潮による浸水被害から防御する本事業の優先性は高い。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

1：策定までに整備済みとなった部分を含む。
2：前回の中間報告時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図



築堤（高潮）L=1.85km

凡例	
—	H24迄に完成箇所
—	H25以降に実施予定箇所

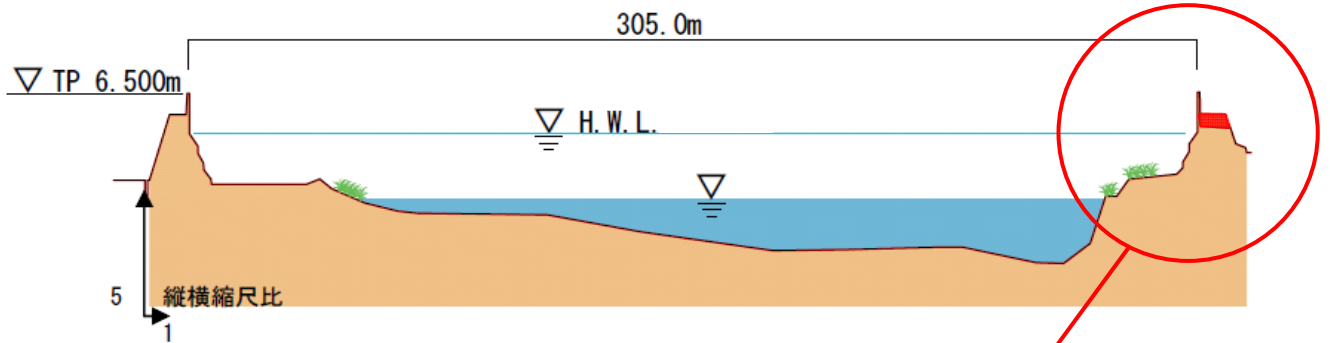
整備済区間(赤穂海浜大橋下流)



未整備区間



標準断面図



右岸堤防 標準断面図

